

省エネルギー、CO₂排出量削減

当社では、地球環境問題が表面化する以前から省エネルギー活動に取り組んでいます。横浜事業所（本社、ばね横浜工場、シート横浜工場）では1991年に首都高速道路建設事業に伴い旧日本社及び横浜工場の全面移転を行いました。この移転を契機に移転先における施設及び設備で省エネルギー対策を強化し実施しました。

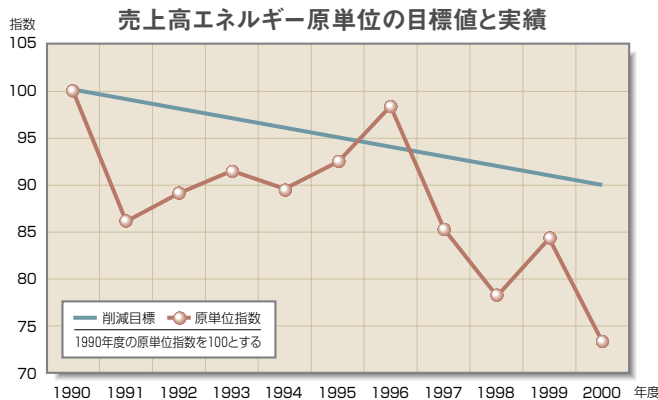
また、1993年には省エネルギー分科会を設置し、関係企業とも連携して活動目標をかかげ、CO₂排出量削減等の地球温暖化防止に取り組んでいます。

● 省エネルギー

省エネルギー活動の目標

1990年度を基準として売上高エネルギー原単位の年率1%削減

省エネルギー活動の実績



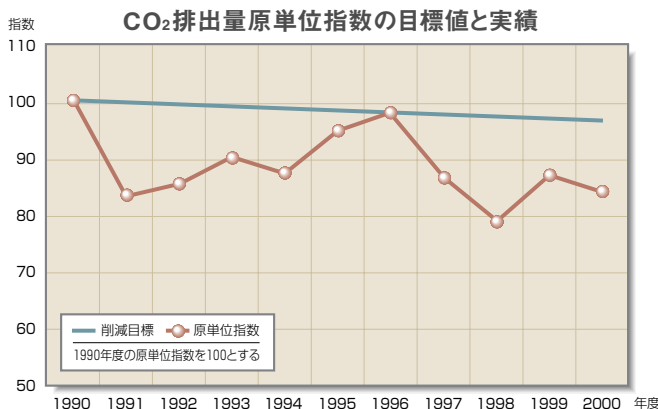
2000年度原単位目標値90（1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値）に対して、原単位指数73と目標値をクリアしています。

● CO₂排出量削減

CO₂排出量削減活動の目標

1990年度を基準として売上高CO₂排出量原単位を2010年度までに7%削減

CO₂排出量削減活動の実績



2000年度原単位目標値97（1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値）に対して、原単位指数84と目標値をクリアしています。

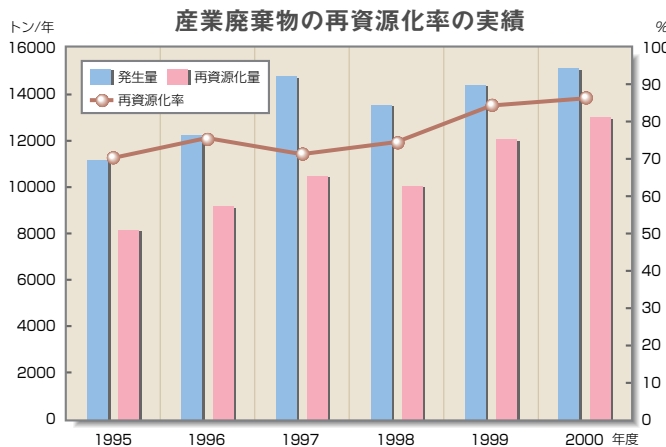
廃棄物の削減

当社では、産業廃棄物分科会及び一般廃棄物分科会を設置し、廃棄物量の削減、再使用、リサイクルに取り組んでいます。

産業廃棄物削減活動の目標

ゼロエミッションを横浜事業所で2002年度までに、全社で2005年度までに達成

産業廃棄物の再資源化率の実績



2000年度で再資源化率86%を達成することができました。全社で2005年度までにゼロエミッション達成を目標として、廃棄物の埋立処分量の削減をめざしています。



ジクロロメタンの再生施設

● 産業廃棄物削減活動の具体的事例

廃棄物削減の取り組みとして、ジクロロメタンの再生及び再利用、代替フロン洗浄剤の再生及び再利用、自動車用シート製造時のウレタン屑発生の削減活動、焼却炉用補助燃料として廃油の使用などを行っています。



廃棄物(シート状PET)

● 産業廃棄物リサイクルの具体的事例

リサイクルの取り組みとして、排水処理汚泥をセメント原料としての再利用、ショットピーニング屑(微細鉄粉)の土壌改良剤への再利用、ウレタン屑のチップウレタンとしての再利用などを行っています。また、生産工程で使用し廃棄されるシート状PET(ポリエチレンテレフタレート)も作業服などにリサイクルされています。



リサイクル品(作業服)

ゼロエミッションへの挑戦

2000年11月から横浜事業所に「Y530(横浜事業所ごみゼロ)プロジェクト」を設置し“ゼロエミッション”に挑戦しています。ごみを出さない活動、ごみを買わない活動、ごみをリサイクルする活動を展開しています。2002年度までに再資源化率99%以上を目標とし、横浜事業所で達成した後は当社全体に展開していきます。

環境負荷物質の管理と削減

●PRTRの調査

当社では、1997年度から経済団体連合会のPRTR自主調査の取り組みに参加し、環境負荷物質の排出量、移動量の把握に努めています。

2001年度からはPRTR法によるデータ収集が開始されていますが、当社では2年前までさかのぼり、対象物質をPRTR法に基づく第一種指定化学物質まで拡大して再計算し、データの蓄積と報告体制を整えています。次の表もこの形式で記載しています。

2000年度：環境汚染物質の排出量・移動量の調査結果

PRTR法 政令 No.	物質名	指定化学物質 の種類	取扱量	排出量			移動量	消費量 (製品)	除去 処理	リサイクル
				大気	水域	土壌				
1	亜鉛化合物	第一種	3.5	—	0.1	—	—	2.1	—	1.3
40	エチルベンゼン	第一種	12.4	6.6	—	—	—	—	5.8	—
61	ε-カプロラクタム	第一種	2.1	0.2	—	—	—	—	1.9	—
63	キシレン	第一種	50.8	15.2	—	—	17.0	—	18.6	—
144	ジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC225)	第一種	15.1	14.3	—	—	—	—	—	0.8
145	ジクロロメタン	第一種	107.9	100.6	—	—	1.4	—	—	5.9
172	ジメチルホルムアミド	第一種	1.2	—	—	—	—	1.2	—	—
179	ダイオキシン類*	特定第一種	342.7	342.7	—	—	—	—	—	—
200	テトラクロロエチレン	第一種	1.5	1.5	—	—	—	—	—	—
207	塩化銅	第一種	18.7	—	—	—	—	—	—	18.7
227	トルエン	第一種	59.0	24.5	—	—	15.4	—	19.1	—
259	ピリジン	第一種	1.5	—	—	—	1.5	—	—	—
272	DOP(フタル酸ビス)	第一種	4.9	0.1	—	—	2.0	2.6	0.2	—
311	マンガン化合物	第一種	1.6	—	—	—	—	1.6	—	—
338	TDI(トリレンジイソシアネート)	第一種	1,597.9	16.4	—	—	10.7	1,570.8	—	—
352	リン酸トリス	第一種	1.2	—	—	—	—	1.2	—	—
構成比			100.0%	23.5%	0.0%	0.0%	2.2%	71.1%	2.0%	1.2%

* 179:ダイオキシン類の単位は [mg-TEQ/年]

● 集計方法は経団連PRTR自主取り組みに準拠(年間取扱量が全社合計で1トン以上のものを記載)

● —はゼロ

単位：トン/年

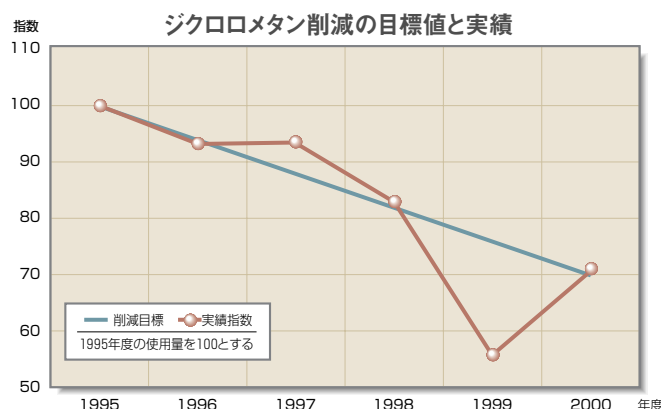
●ジクロロメタンの削減

当社の所属団体である(社)日本自動車部品工業会の「自主的環境行動計画」に従い、ジクロロメタンの使用量削減に取り組んでいます。

ジクロロメタン使用量削減の目標

2000年度末までにジクロロメタンの使用量を対1995年度比で30%削減

ジクロロメタン使用量削減の実績



2000年度の使用量削減目標値70(1995年度の使用量を100とした場合の削減目標値)に対して実績指数71と目標値を若干こえています。一部の品種の生産量が増加したため、連動して使用量が増加しました。これについては代替品を含め、削減の方法を検討しています。